灯りをかかげて
90周年
100年に向かって

2012年
日本ライトハウス
90年の歩み

ごあいさつ

創業90周年を迎えるにあたり

社会福祉法人日本ライトハウス会長　岩橋 明子

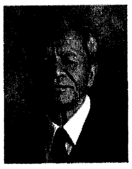
今回、創業90周年を迎えるにあたり、大勢の方々が共に喜んでくださったことに心から感謝申し上げます。

創立者・岩橋武夫が蒔いた小さな一粒の種は、雨風に耐え何とか大きく育ちました。今では、公私を問わず多数の施設が各府県で活動していらっしゃるのを見るに至っています。

この度、90周年を記念し、『往復書簡ー日本の障害者福祉の礎(いしずえ)となったヘレン・ケラー女史と岩橋武夫』を刊行しました。ヘレン・ケラーと武夫の間で交わされた数多くの書簡が箱の中で眠っていたものを訳して、皆様にご披露することに致しましたが、熱心なキリスト者であり、同時に哲学者、詩人でもあった二人の書簡を訳すことは容易なことではなく、お引き受けするべきかどうか迷いました。しかし、二人に直接接した数少ない者の一人として、また、岩橋の家族として引き受けるべきであると決心致しました。翻訳につきましては、拙い点も多くお見苦しいこととは思いますが、ご一覧いただけたらと存じます。そして、戦前、戦中、戦後を通して、二人が、日本のそしてアジアの盲人福祉について何を願ったのか、また、その熱い思いの一端を改めて知ることが出来たかと思います。

やがて、100周年を迎えるにあたり、日本ライトハウスは、世の中の変化やニーズに沿うとともに、創立者の強い願いを守り続けていきたいと思っております。

今後も、皆様の温かいご支援をいただき、ご鞭撻賜りますようお願いし、一言ご挨拶に代えさせて頂きます。



100周年をめざして

社会福祉法人日本ライトハウス理事長　木塚 泰弘

「ライトハウス」を英語でLighthouseと続けて書き、最初のLiを強く発音すると「燈台」になります。昔は、月も星も見えない真っ暗闇や濃霧の海で、船が遭難しないように、強い光を出してその位置を示し、安全な航路を確保していました。最近では、光を出す燈台はほとんどなくなり、その役割は電波に替わりました。

『海なき燈台』という岩橋武夫の著書もあるように、人生航路に迷う目の見えない・見えにくい人に、自分の位置と安全・安心な人生航路を選んでもらうのが「ライトハウス」の使命でした。今でもその使命は変わりありません。ただ、情報通信技術などが飛躍的に革新される中で、いち早くそれらを取り入れて、サービスの対象や内容も広く深く変えていくことが必要です。

情報文化センターでは、「視覚障害者情報総合ネットワーク“サピエ図書館”」のサポートセンターを引き受け、インターネットによる情報利用を促進しています。さらに、電子書籍化の流れに沿い、学習障害者など「読み書き」に困難のある方々に対しても、パソコン上で文字と音声を同時に読めるマルチメディアデイジー図書などの製作・提供を行っています。

もちろん、直接サービスのコミュニケーション支援(代読、代書)や、日常生活用具の使用法と購入の支援などは、利用者との温かい関わり合いが重要です。また、紙の点字文化の一層の進展を図るため、個々のニーズに応じた小部数印刷のシステム開発が必要です。

視覚障害リハビリテーションセンターでは、社会・職業リハビリテーションとソーシャルワークのあるべき姿を探求し、相談や訪問支援の充実をはかり、またそれに応じた事業の再編成などを行う必要があります。利用者とのパートナーシップでコラボレーション(協働作業)を行うわけですが、いずれにしても楽しく豊かに行いたいものです。

就労問題については、目の見えない・見えにくい在職者や求職者と、企業や行政などとの緊密なネットワークを作りあげていきたいと考えています。その他、盲導犬訓練所の一層の発展と、盲人ホームでの技術訓練・在職者研修の充実なども課題です。支援者の養成事業では、視覚障害者が困難に遭遇した時の問題解決がはかれるようなカリキュラム構成をし、またそれがリハビリテーション部門の実践に活用されることが重要です。

創業者のパイオニア精神を継承し、「インクルーシブ・コミュニティ」の実現をめざし、時代の要請に応えるべく、今後とも努力してまいります。みなさまのご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

祝辞

アメリカ・ニューヨーク
ライトハウス・インターナショナル
会長・CEO **マーク・G・アッカーマン**

近く創業90周年を迎えられますとのこと、誠におめでとうございます。

ウィニフレッド・ホールト・マザー夫人のライフワークは、視覚障害をもっている人々に対する献身的な活動がすべてで、世界中で数え切れないほどたくさんの人々の生活において意義ある貢献をいたしました。日本ライトハウスが、これだけの年月をかけ発展し続けているご様子に接し、とても嬉しく存じます。ホールト・マザー夫人の遺産は生き続けています。

ご承知のように、視力をなくした人々の数は着実に増加しており、我々組織の支援事業はいつも需要が高い状態となっています。WHOの予測では、世界中で2億8500万人以上の視覚障害者が、この来たるべき10年に急激な増加をすると示しています。この増えつつある需要に遭遇し、視覚障害者の支援事業を強化するための結束が、我々、関係者組織の肩にかかっています。

この90年間にわたる日本ライトハウスの視覚障害福祉分野におけるご尽力に敬意を表するとともに、さらに大きく飛躍され、我らとともに果敢に取り組まれますよう期待します。

みなさまがニューヨークに来られ、ライトハウス・インターナショナルを訪問されますことを、いつでもお待ちしています。

いまいちどお祝いを申し上げるとともに、記念式典のご盛況を心よりお祈りしております。

オーストラリア
ヴィクトリア盲導犬協会 盲導犬サービス
アドバイザー **ジョン・F・ゴスリング**

日本ライトハウスが創業90周年を迎えるにあたって、当ヴィクトリア盲導犬協会として祝辞を申しあげます。

岩橋武夫氏が1922年に日本ライトハウスを創業してより、日本の視覚に障害を持つ人々のための主要な事業を展開してこられました。

オーストラリア盲導犬協会（RGDAA）／ヴィクトリア盲導犬協会（GDV's）と日本ライトハウスの出会いは、1969年に World Council for the Welfare of the Blind (WCWB) のリハビリテーション委員会に、当時のRGDAA会長であったJ・ケース・ホールズワース MBE MA と二代目理事長岩橋英行氏が出席されたときでした。そのとき日本ライトハウスの盲導犬事業を設置するためにRGDAAからの支援について話し合われました。

1970年-1971年に、日本ライトハウスから最初の盲導犬訓練士研修のため日紫喜均三氏がヴィクトリア盲導犬協会に来られました。日紫喜氏が日本に帰られ日本ライトハウスの屋上でトレーニングが始まり、その後和歌山県に新しく造られた盲導犬訓練所に移転されました。

過去40年間、ヴィクトリア盲導犬協会は尊い信用あるパートナーとして日本ライトハウスと密接な事業を進めております。そして100頭以上の仔犬や成犬を日本ライトハウスに送ることができました。ヴィクトリア盲導犬協会はまた、日本ライトハウスから他に5名のスタッフを研修生として受け入れました。

2009年には、ヴィクトリア盲導犬協会のキース・ホールズワースが岩橋武夫賞の栄に浴しました。

日本ライトハウスが国際盲導犬連盟の日本メンバーとしてリーダーシップをとられてきたことは、大いに誇るべきです。

今後も日本ライトハウスとヴィクトリア盲導犬協会とが、素晴らしい連携を保ち続けることを期待しています。日本ライトハウスの発展と、日本の多くの視覚に障害のある方々の社会参加のために優れた盲導犬が提供できますよう、祈念いたしております。

大韓民国
医療法人シロアム眼科病院長
社会福祉法人シロアム視覚障害者福祉会創設者
牧会学博士、神学博士、哲学博士 **金 善泰 牧師**

今から90年前、日本が社会的、経済的に不安定であった時期に、神様は岩橋武夫先生をお用いになり、日本ライトハウスを創立させ、今日にまで至らせられました。心より感謝とお祝いを申し上げます。

岩橋武夫先生のお志をそのご子息であられる岩橋英行先生が受け継がれ、発展させて来られ、岩橋英行先生のご夫人であられる岩橋明子会長が今日に至るまで発展させ続けてこられたことに敬意を表し、心からお祝い申し上げます。

岩橋先生父子と明子先生の示された惜しみない献身と犠牲は、日本の視覚障害者の運命を変えると同時に日本の視覚障害者の希望の太陽となってきました。のみならず、アジアの視覚障害者の希望の星となってくださり、今なお光を放っておられます。

岩橋先生は、いち早くアメリカの福祉と文化の情報を受け入れられ、日本の視覚障害者のためにハイレベルの職業、心理、教育リハビリテーションを行なわれ、様々な福祉プログラムを通して彼らが幸せに生きる道を示してこられました。

韓国の視覚障害者の中にも日本ライトハウスを通して、大きなチャレンジを受けた者たちが多数おります。私自身もそのひとりであります。私も若かりし頃、日本ライトハウスで受けた4ヶ月の訓練と先生方が注いでくださった愛と情熱を昨日のことのように記憶しております。現在、日本ライトハウスと私が理事として働いております社会福祉法人シロアム視覚障害者福祉会とは姉妹関係を結び、知識と情報の交換を続けております。

時が流れ、日本ライトハウスが９０周年を迎えられたことをもう一度お祝い申し上げます。これから、日本ライトハウスが１００周年に向けて更なるご発展を遂げられ、ひとりでも多くの視覚障害者の希望の星であり続けられますようにと願ってやみません。

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会

理事長　**髙橋　秀治**

私が 20 歳で社会へ第 1 歩を記したのは日本ライトハウス点字出版所への就職でした。その 4 年後、私は東京に戻りましたが、日本ライトハウスのすばらしさを知ったのは離れてからのことでした。創立者岩橋武夫先生による視覚障害者の三療以外への職業的社会参加を見据えた幅広い活動、二代目理事長英行先生の「盲人である前に、社会の一員である」と『リハビリテーション』の概念を導入した活動、そして現理事長木塚先生の世界的な人間統合に基づいた「ノーマライゼーション」思想の具体的提唱と実践は、我が国の障害者福祉に大きな影響をもたらしました。このような優れた指導者をいただき、その理想の実現のために幾多の困難を乗り越えて働いてこられた役職員の皆様に、こころから 90 周年のお喜びを申し上げます。社会の果実はまだこれからです。次の 100 年を迎える皆さんが、優れた活動を展開できるよう、ますますのお働きを期待してやみません。

社会福祉法人日本盲人会連合

会長　**竹下　義樹**

創立 90 周年おめでとうございます。

日本ライトハウスは、わが国における視覚障害者の自立を目指し、創設者である故岩橋武夫氏により 1922 年に事業を開始し、今日までたゆまず先駆的役割を果たしてきました。日本ライトハウスがこの 90 年間に果たした功績は数知れず、全国各地における「ライトハウス運動」のリード役として、あるいは視覚障害者施設のモデルともなり、今日の全国における視覚障害者施設の礎となったことは確かです。わが国における障害者福祉制度は大きな転換期にきています。障害者に関する権利条約の批准を目前に、国内における改革が進められようとしていますが、その一方で国家財政の破綻を理由に社会保障全般の切り捨て切り下げが目論まれています。

今後も日盲連をはじめとする当事者団体との連携を強め、わが国の視覚障害者福祉の充実を目指し、引き続きご尽力を賜りますようよろしくお願いします。

社会福祉法人日本盲人福祉委員会

理事長　**笹川　吉彦**

日本ライトハウス創業 90 周年、誠におめでとうございます。長年に亘る関係者の皆様の大変なご尽力により、日本ライトハウスの発展とともに我が国の盲人福祉は飛躍的な発展を遂げました。そして多くの盲人に生きる希望を与えてくださいました。唯々感謝の外はありません。

私は、中学 3 年のとき、視力が急激に低下し悶々とした日々を過ごしておりましたおり、英語の先生から「この本を読みなさい」と 1 冊の本を手渡されました。その本は、岩橋武夫先生の著書『光は闇より』でした。そして盲目という大きなハンデをもちながら、盲人の生活安定と福祉増進に懸命になっておられる岩橋先生はじめ関係者の方々のご努力のほどを知りました。当時はまさか失明するとは思っておりませんでしたが、そのことがあって日本盲人会連合の活動に参加し、今日に至りました。

90 周年という輝かしい歴史を機に、日本ライトハウスがなお一層発展されんことをご祈念いたします。

社会福祉法人名古屋ライトハウス

理事長　**本間　英典**

日本ライトハウス創業 90 周年、誠におめでとうございます。90 年の長きに亘り、常に視覚障害者福祉のパイオニアとして先頭に立ち、視覚障害者の生活と文化の向上のために幅広い事業を展開し成果を挙げて来られました姿に深甚なる敬意を表するものです。

私ども法人にとりましても、終戦直後の混乱の中、岩橋武夫先生のご指導とご尽力によりまして視覚障害者の新職業としての金属作業所を始めることができました。この事業は、当法人の中核的事業として現在においても「就労継続支援事業A型」として活動しております。また、ヘレン・ケラー女史 2 回目の来日の折にも岩橋武夫先生のご支援により、名古屋の地に立ち寄っていただき、地元の視覚障害者に大きな希望と勇気を与えていただきました。あらためまして深く感謝の意を表する次第です。

愛盲精神の下、名古屋ライトハウスも微力ではございますが視覚障害者の自立と文化の向上に寄与することをお誓いしますと共に、日本ライトハウスの益々のご発展と皆様のご健勝を祈念しお祝いの言葉といたします。

社会福祉法人京都ライトハウス

理事長　**西　晴行**

創業 90 周年をお迎えになり、誠におめでとうございます。

日本ライトハウスは日本の盲人福祉を先導されてきており、大先輩として浅からぬ縁を感じております。

といいますのは、京都ライトハウス創業のため、鳥居篤治郎が設立運動に懸命に取り組んでいたものの資金面でなかなか開設の目途が立たずに苦慮していた時、肝胆相照らす岩橋英行氏から、やり遂げるべき今の機会を逃すなと背中を一押しされたことが 1961 年の当法人の創立に結びついたと聞いております。また、お父さんの岩橋武夫氏は、1948 年に日盲連を結成して初代会長に就任され、盲人福祉の発展に取り組まれましたが、鳥居篤治郎は 2 代目の会長としてバトンを受け取っています。

まさに、京都ライトハウスは、日本ライトハウスを目標に事業の充実に取り組み、育ってきたものと思います。

これからも盲人福祉のリーダー的存在として、ますます輝かしい光を放ち続けていただきますようお祈りいたします。

社会福祉法人日本点字図書館

理事長　**田中　徹二**

私が網膜剥離の手術で病床に伏しているときに、母が岩橋武夫の『光は闇より』を読んでくれました。年数は離れていても、早大の理工学部学生のときに失明したという同じ境遇に、岩橋先生のように私が社会復帰に意欲を燃やすことを願って、母は期待したのかもしれません。

それから 30 数年後、私は日本点字図書館に奉職しました。岩橋武夫、本間一夫という偉大な先覚者が創立した日本ライトハウスと当館は、わが国の視覚障害者にとって正に西と東の拠点です。双方とも揺るがすことができない長く輝かしい歴史に裏打ちされた実績を誇っています。その実績を踏まえて、さらに内容の濃い視覚障害者サービスを目指して、これからの 10 年、20 年、お互いに大いに研鑽していきたいものです。

日本ライトハウスがさらに大きく羽ばたかれんことを祈念いたします。

財団法人大阪府視覚障害者福祉協会

会長　**井上　誠一**

それは今から半世紀以上前のことになります。私は失明直後で、何事にも意欲がわかず、鬱々とした日々を過ごしていました。そんなとき、ラジオから、「日本ライトハウス」が「声の図書」を制作し視覚障害者に貸し出すというニュースが流れてきたのです。好きな本が独力で読めなくなった時期だけに、私は多いに触発され、早速利用させていただきました。これをきっかけに、私は「日本ライトハウス」の事業に関心を持つようになったのです。

「日本ライトハウス」は創業から 90 年、情報の提供・中途失明者の生活訓練・就労の支援など、視覚障害者の自立と社会参加に欠くことのできない事業を先駆的に展開してこられました。これは私どもにとりまして大きな感謝です。

先人から、「視覚障害者の福祉は関西から」という言葉を聞いたことがあります。これを実践し私たちをリードしてくださったのが「日本ライトハウス」と言っても過言ではありません。

今後も、100 周年に向かって飛躍されることを期待しています。

社団法人大阪市視覚障害者福祉協会

会長　**山﨑　一夫**

創業 90 周年を迎えられたことは、ほんとうにおめでとうございます。

わたくしも福祉団体の役員として、また、日ごろ利用させてもらっている一人として、心からお祝いとお喜びを申し上げる次第です。

日本ライトハウスは大正 11 年(1922 年)に岩橋武夫先生が自宅において点字図書の製作を開始されたのが始まりだと聞いています。しかし、翌年には関東大震災が起こるとともに、昭和に入っては世界大恐慌、それに引き続き満州事変、日支事変、そして第二次世界大戦となり、敗戦をむかえました。激動の世相であり、物心とともに非常に厳しく困難な時代であったと想像されます。

そんな中でも、ライトハウスの火が消されることなく灯し続けてこられたのは、盲人の福祉と文化の向上・発展を図らなくてはならないという強い信念があったからだと思います。岩橋先生と、ヘレン・ケラーさんとの強い心のつながりから 3 回もの来日が実現し、我々盲人だけでなく、日本国民に深い感銘と大きな感動を与えられました。

日本ライトハウスは現在、リハセンター、盲導犬の育成、生活訓練、生活介護、そして社会の変化に対応すべく、情報文化センターにも力を入れられ、我々に不足がちな情報提供にも大きな役割を果たしています。ライトハウスの事業も大変多岐にわたってきていますが、この厳しい経済状況の中、努力をしておられることに感謝申しあげます。

最後に、創業の意思を我々が引き継ぎ、ライトハウスの火を消すことなく、ますます発展させていかなければと考えています。

皆様方のご健勝をお祈り申しあげます。

全国盲学校長会

会長　座間　幸男

日本ライトハウス創業90周年、まことにおめでとうございます。

日本ライトハウスは、障害者の自立と社会参加に最初に取り組まれたパイオニアとして、特に視覚に障害のある方々へのさまざまな支援に取り組まれました。また、点字教科書の作成や歩行訓練士養成のための研修事業等で、日本の盲学校教育の充実、そして、教員の指導力向上と視覚障害教育の充実・発展に多大に貢献されました。

一方、情報文化センターや視覚障害リハビリテーションセンターの事業を通して、視覚障害者への情報提供や自立を支援するなど、積極的に支援を行ってこられました。

今年度の全国盲学校の幼児・児童・生徒数は3,456人と、減少傾向にありますが、一人一人のニーズに応じた教育を行い、夢と希望を実現すべく、全国の盲学校が一体となって頑張っています。

これまでの日本ライトハウスのご功績に対し、心より感謝申し上げますとともに、今後も益々のご発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

毎日新聞社点字毎日

編集長　岡田　満里子

日本ライトハウスの創業90周年をお祝いするとともに、視覚障害者とともに歩まれたその長い道程に心よりの敬意を表します。

岩橋武夫氏がライトハウスの灯を掲げた1922年、「点字毎日」は、奇しくも同じ大阪の地で創刊いたしました。以後、視覚障害者福祉の実践に邁進されるライトハウスは、点毎にとって重要なニュースソースであるとともに、初代編集長・中村京太郎が創刊の辞にうたった「盲人にとって眠れる社会の良心を呼び覚ます」ための同志でもありました。この90年、点字出版、点字図書館、就労支援、リハビリテーションセンター、盲導犬育成など、利用者のニーズを第一に、多くの道を切り開いてこられました。岩橋氏との友情を基盤としたヘレン・ケラー女史招聘が、日本中に大きな旋風を起こしたことも忘れられません。

科学、とりわけ、情報技術の飛躍的な進歩によって、視覚障害者をとりまく環境は大きく変わりつつあり、ライトハウスの果たす役割はますます重要度を増しています。今後とも、「海なき灯台」の光がいっそう輝き続けることをお祈りいたします。

一燈園

当番　西田　多戈止

90周年おめでとうございます。

岩橋武夫先生と祖父西田天香（一燈園）とは、日本ライトハウス創立以前からの親交があり、ライトハウス設立にも協力させていただいたと聞いています。

昭和29年に武夫先生が亡くなられたあと、若い岩橋英行氏はライトハウスの経営に随分ご苦労されたようで、その為に失明されたのではないかと思っています。

昭和45年正月の新聞に、ネパールに眼科医を派遣するのが私の夢だ、という英行氏の記事を私は見て、何をおいてもお手伝いしたい、私の出来ること、それは他家のトイレ掃除をして英行氏の夢が実現するよう祈ろうということでした。極めてささやかなことでしたが、私もAOCA（アジア眼科医療協力会）設立に協力出来たことを感謝しています。

日本ライトハウスは今、先達お二人の志を継承された関係者の方々に依って、盲人の方達に光を示して下さっていることに、心からの敬意を表する次第です。

（日本ライトハウス理事）

特定非営利活動法人全国盲導犬施設連合会

理事長　田上　昭一

この度は、日本ライトハウス創業90周年の祝賀にあたり、心からお祝い申し上げます。

私ども全国盲導犬施設連合会は「ともに生きる、ともに歩む」を合言葉に活動している盲導犬育成団体の全国組織です。

貴法人は日本における視覚障害者福祉事業のパイオニアとして、目の見えない、見えにくい方々の生活向上に力を尽くされており、90年という長い年月を経たその豊富な知識と経験は、私どもが盲導犬事業を推進する上で、極めて貴重なものであり、その多大なる業績には心から敬意を表す次第です。

今後も、全国盲導犬施設連合会の加盟施設として、視覚障害者の外出歩行をサポートする盲導犬事業の発展にご協力賜わりたくお願い申し上げます。

時代はめまぐるしく変化を遂げていきますが、貴法人におかれましては、先達のご功績を踏まえ、そして確固たる信念を持って、これからも障害者福祉事業の世界において、更なる発展を遂げられんことを祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

一般財団法人安全交通試験研究センター

理事長　三宅　三郎

私が（社福）日本ライトハウスを存じ上げたのは昭和38～9年頃だったと思います。世界最大の人命救助犬（セントバーナード犬）を介して岩橋家とお付き合いをしておりましたとき、兄精一よりご主人の英行様は日本ライトハウスの二代目理事長で、我が国における盲人福祉に貢献されている方だと知らされました。

折しも、兄精一は目の不自由な方々の歩行支援として、「点字ブロック」を考案し、試行錯誤していた頃でもありました。この奇遇なご縁によって、英行様は良き理解者として、また友人として、動物好きの二人は親交を深めて参りました。その後、相次いで二人の逝去という無念の時を体験しましたが、奥様の明子前理事長（現会長）そして木塚現理事長へと継承され、ここに輝しい創業90周年を迎えられましたことに、心からのお慶びを申し上げます。

この上とも、「障害者の自立と社会参加」のパイオニアとして、世界の盲人福祉にご尽力をいただき、日本ライトハウスのますますのご隆盛を希っております。結びに、永年のご厚誼に感謝し祝詞といたします。

日本ライトハウス後援会「灯友会」

会長　桂　知良

日本ライトハウス創業90周年、誠におめでとうございます。

私と二代目理事長岩橋英行氏との出会いは、31年前にチャリティ・コンサートの協力依頼のために、私が所属している大阪城東ロータリークラブに来られた時が始まりです。日本ライトハウスは、大正11年より太平洋戦争を経て今日まで90年間、視覚に障害のある方々への支援事業を継続して来られました。「共歩共生」社会の実現に向けて、岩橋英行氏に連なる役職員の方々が社会参加促進に向けてたゆまぬ努力をされている姿を見て、平成8年に後援会である「灯友会」を設立いたしました。以来、会員拡大、ミニコンサート、街頭募金や作品展示バザールなど幅広く活動し、収益を生み協力することができています。「灯友会」は、今後も微力ですが日本ライトハウスの事業を支援して参ります。

日本ライトハウスの今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

（日本ライトハウス理事）

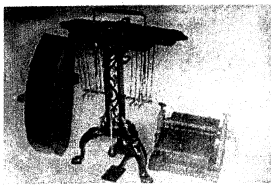
日本ライトハウス年表

大正時代

大正11年 1922年

創業

● 岩橋武夫が「点字文明協会」を設立し、点字図書の出版に着手



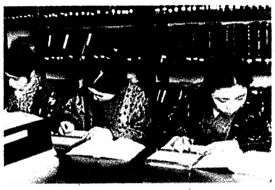
昭和時代

昭和3年 1928年

● 自宅に「ライト・ハウス」の看板を掲げ、会館建設に踏み出す。

昭和4年 1929年

● 霊交会員とともに「フレンド点訳奉仕会」を組織



昭和8年 1933年

● 岩橋武夫は「大阪盲人協会」会長に就任し、自宅で点字図書の貸出を開始

昭和10年 1935年

法人の設立

● 大阪市住吉区（現・阿倍野区）に「ライト・ハウス」会館を建設
● 点字出版事業を本格的に開始
● 点字図書貸出事業を本格的に開始
● 厚生援護、教育訓練、家庭訪問指導事業等を開始

昭和11年 1936年

世界13番目のライトハウス認可

● ライトハウスの創始者マザー女史を迎えて開館式を挙行

昭和12年 1937年

ヘレン・ケラー運動（第1回）を展開

● ヘレン・ケラー女史を招き、日本全国から朝鮮、中国東北部（満州）にわたり、4ヵ月間、巡回講演（朝日新聞社後援）

昭和13年 1938年

● 社会事業法の盲人社会事業施設として認可
● 点字月刊雑誌『黎明』創刊

昭和17年 1942年

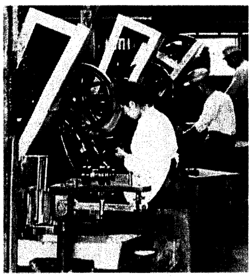
● 『ヘレン・ケラー全集』『宮本武蔵』などを点字出版

昭和18年 1943年

● 「ライト・ハウス」を「愛盲会館」、後に軍人援護会管轄の「失明軍人会館」と改称

昭和21年 1946年

● 「ライト・ハウス」に名称を戻し、収益事業「ライト・ハウス金属工場」を新設



昭和22年 1947年

● 「社団法人」に組織変更

昭和23年 1948年

ヘレン・ケラー・キャンペーン（第2回）を展開

● 「日本盲人会連合」結成、岩橋武夫が会長に就任
● ヘレン・ケラー女史を再び招き、全国で2ヵ月間、巡回講演（毎日新聞社後援）

昭和27年 1952年

法人の認可

● 社会福祉事業法に基づき「社会福祉法人ライト・ハウス」と改称

昭和28年 1953年

● 「日本盲人社会福祉施設協議会」発足、岩橋武夫が委員長に就任

昭和29年 1954年

● 岩橋武夫が死去し、岩橋英行が2代目理事長に就任
● 盲学校点字教科書（高等部）発行に着手

昭和時代

昭和 30 年 1955 年
- ヘレン・ケラー女史が岩橋武夫の弔問にライトハウスを訪問

- アジア盲人福祉会議を、東京で開催

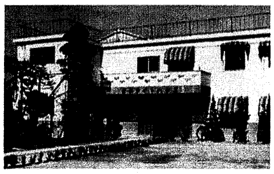
昭和 31 年 1956 年
- 「日本盲人福祉委員会」発足、事務局をライトハウス内に置く
- 盲学校理療科点字教科書の発行開始

昭和 33 年 1958 年
- 盲学校小・中学部点字教科書の発行開始

昭和 34 年 1959 年
- 「声の図書館」を開設し、録音図書の製作・貸出を開始

- 阿倍野区に「大阪盲人ホーム」を建設し、事業開始

昭和 35 年 1960 年
「社会福祉法人日本ライトハウス」と名称変更
- 大阪市鶴見区に新社屋を建設
- 点字月刊誌『暮しの光』創刊



昭和 36 年 1961 年
- 厚生省委託・声の図書製作・貸出事業を開始

昭和 37 年 1962 年
- 『日本ライトハウス四十年史』出版

昭和 38 年 1963 年
- 『コンサイス英和辞典』全71巻を点字出版（第1回大阪文化賞受賞）
- 厚生省委託・点字図書製作・貸出事業を開始

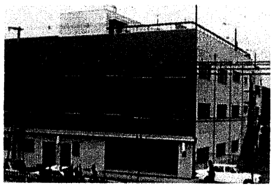
昭和時代

昭和 39 年 1964 年
- 「ライトハウス金属工場」を鶴見区に建設し、操業開始
- 岩橋英行が「世界盲人福祉協議会」副会長に就任

昭和 40 年 1965 年
視覚障害リハビリテーション事業の開始
- 「職業・生活訓練センター」を新築、開所

昭和 43 年 1968 年
- 名誉総裁ヘレン・ケラー女史死去
- 自治体点字広報誌の製作開始

昭和 44 年 1969 年
- 「職業・生活訓練センター」を増築



- 電話交換手養成事業が厚生省委託事業となる
- 厚生省委託・購入図書配布事業開始

昭和 45 年 1970 年
盲導犬訓練事業を開始
- サーモフォーム熱成型印刷を開始し、カラー版『万博点字会場案内図』製作
- 歩行訓練指導員養成講習会開催（AFOB、現ヘレン・ケラー・インターナショナルとの共催）

昭和 46 年 1971 年
- コンピュータ・プログラマー養成コースを開設

昭和 47 年 1972 年
- 歩行指導員養成講習会が厚生省委託事業となる
- 『世界盲人百科事典』完成

昭和 48 年 1973 年
- 「アジア眼科医療協力会（AOCA）」発足、岩橋英行が会長に就任
- コンピュータ・プログラマー養成事業が厚生省委託事業となる
- 盲導犬第 1 号リンダ誕生

昭和時代

昭和49年 1974年
- 「近畿点字研究会」発足、事務局を担当
- 点字運賃表の製作開始
- 「岩橋武夫賞」創設

昭和50年 1975年
- 第1回岩橋武夫賞を台湾盲人重建院の曽文雄氏に授与

昭和51年 1976年
- 日本ライトハウス募金委員会を結成し、第1回チャリティショーを開催

昭和53年 1978年
「行動訓練所」(盲導犬事業部門)を和歌山県田辺市に新築
- 収益事業「ライトハウス金属工場」を閉鎖し、株式会社として分離独立

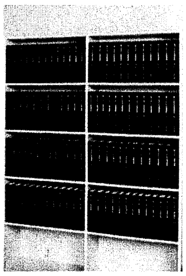
昭和54年 1979年
「盲人情報文化センター」を大阪市西区に新築開館
- 対面朗読サービスを開始
- 情報文化センター「ボランティア友の会」結成
- 後援会「盲導犬を育てる会」発会

昭和55年 1980年
- 点字自動編集・製版システム「BRED68」を開発・導入

昭和56年 1981年
- 後援会「日本ライトハウス阪神友の会」発足
- 職業訓練部門が労働省へ移管(身体障害者等能力開発訓練事業)

昭和57年 1982年
- 発泡印刷システムを導入し、『社会科地図帳』新版などを点字出版
- 第1回チャリティコンサート開始(大阪城東ロータリークラブ協賛)

昭和58年 1983年
- 『新コンサイス英和辞典』全100巻、『フランス基本語5000辞典』全14巻を点字出版(日本翻訳出版文化賞受賞)



昭和59年 1984年
- 岩橋英行理事長が死去し、岩橋明子が3代目理事長に就任
- 電気、ガス等公共料金点字サービス業務を開始

昭和60年 1985年
- 「'85盲人福祉展」を開催(~'90)(大阪府・市盲人福祉協会と共催)

昭和61年 1986年
- 「視覚障害情報サービス」を開始(日本アイ・ビー・エム助成)

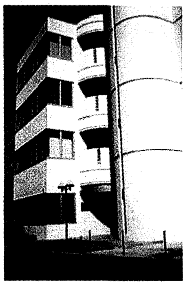
昭和62年 1987年
- 専門点訳・音訳講習会を開講(毎日新聞大阪社会事業団助成)

昭和63年 1988年
- 『黎明』通算600号、記念号発行
- スチューデント(プライベート)点訳サービス開始

平成時代

平成元年 1989年
- 故ビカール夫人の遺贈金を元に海外研修と国際交流の特別事業開始

平成3年 1991年
出版部門を「点字情報技術センター」と改称し、東大阪市に新築移転



平成4年 1992年
創業70年
- 記念式典を挙行
- リハビリテーション部門を改築して、「視覚障害リハビリテーションセンター」と改称

- 厚生省委託・歩行指導者養成課程に改編

平成時代

平成7年 1995年
「行動訓練所」を大阪府千早赤阪村に新築移転

平成8年 1996年
- 台湾盲人重建院と姉妹提携締結
- 『デイリーコンサイス独和辞典』全56巻を点字出版
- 日本ライトハウス後援会「灯友会」が発会

平成9年 1997年
- 視覚障害者パソコンサポート「ボイスネット」発足
- 盲導犬ボランティア組織「ライトフレンズ」結成

平成10年 1998年
- 「てんやく広場」が「ないーぶネット」に発展、事務局を担当
- 「情報機器展98」(現在の日本ライトハウス展)開催

平成11年 1999年
- 木塚泰弘が4代目理事長に就任、岩橋明子が会長に就任
- デイジー図書製作・貸出開始

平成12年 2000年
- 法人ホームページを開設
- 点字月刊誌『黎明』と『暮らしの光』を廃刊

平成13年 2001年
- 『ユニバーサルスタジオジャパン点字ガイドブック』制作
- 「デイジースタジオ」と「エンジョイ!グッズサロン」開設
- 厚生省委託・視覚障害生活訓練等指導者養成課程を開始

平成14年 2002年
- 創業80周年記念誌『わが国の障害者福祉とヘレン・ケラー』出版
- 「日本・韓国・ベトナム視覚障害者サッカー交流会もう一つのワールドカップ」開催
- カンボジア視覚障害者支援事業開始(毎日新聞大阪社会事業団委託)

平成15年 2003年
- 韓国の社会福祉法人シロアム視覚障害者福祉館と姉妹提携締結
- 中村点字器製作所製点字製版機「ZPメーカーNTY型A4仕様」導入

平成16年 2004年
- 日本盲人福祉委員会選挙公報プロジェクトを組織し、参院選選挙公報の発行業務を担当
- 録音図書インターネット配信システム「びぶりおネット」開始
- 職業訓練部機械科を廃止してビジネス科を設置

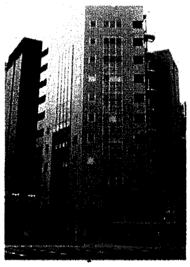
平成17年 2005年
- 大阪盲人ホーム「はなてん治療院」を改築

平成18年 2006年
- 点字自動編集・製版システム「WinBred10」完成、点字製版機「ZPメーカーNTY型A4仕様」を改造し、運用を開始
- 盲人情報文化センター改築に着手し、道頓堀に仮移転

平成19年 2007年
- 居宅介護事業所「日本ライトハウス居宅支援センターてくてく」開設

平成20年 2008年
- マルチメディアデイジー製作事業、テレビ・映画への音声解説事業開始

平成21年 2009年
事業再編
- リハビリテーション部門を障害者支援施設「日本ライトハウスきらきら」および障害福祉サービス事業所「日本ライトハウスわくわく」に再編成
- 情報部門が新築開館し、「情報文化センター」に改称



平成22年 2010年
- 盲導犬事業開始40周年記念フェスタを開催、「盲導犬訓練所」と改称

- 大阪市立早川福祉会館点字図書室の運営を受託
- 「サピエ」(「ないーぶネット」と「びぶりおネット」を統合発展)サポートセンターを担当

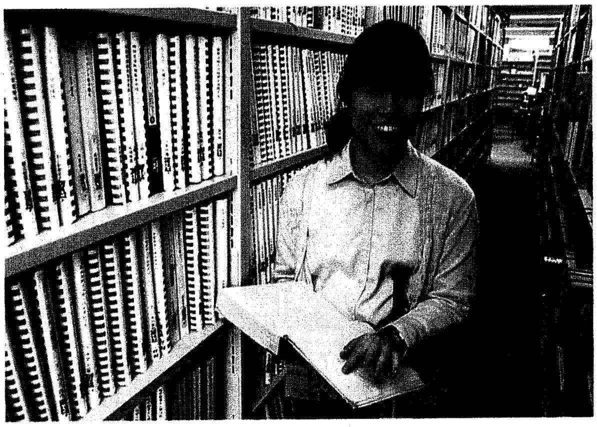
平成23年 2011年
- 日盲社協点字出版部会事務局として『日本点字出版総合目録』を編集発行
- 東日本大震災視覚障害被災者支援に職員を派遣(日本盲人福祉委員会に協力)

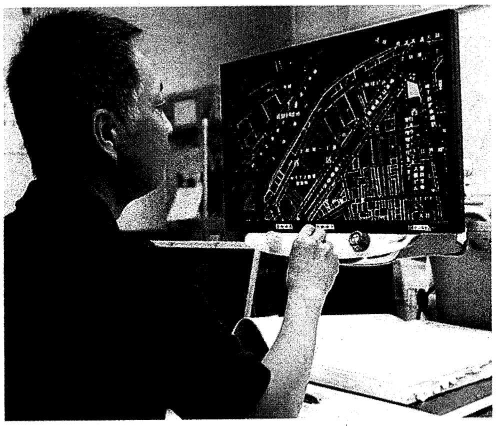
平成24年 2012年
創業90年
- 情報文化センター分館(点字・録音書庫)を開設

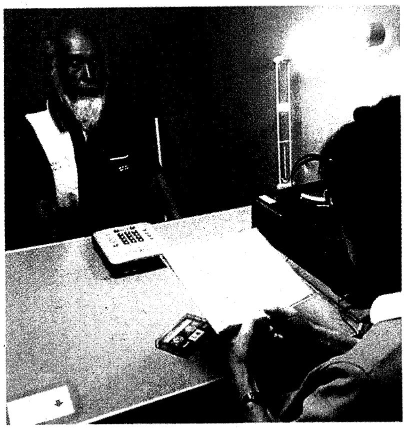
情報文化センター（西事業所・東事業所）

“読み書き”に困難のあるすべての方々に “学び、働き、暮らし、楽しむ”ことを支える情報を

情報文化センターでは、全国の目の見えない方・見えにくい方、読み書きに困難のある方の情報環境を改善するため、東・西事業所の職員と600人を超えるボランティアの力で、点字・録音・電子媒体等の図書や雑誌を年間1千点近く製作・提供しています。さらに、西事業所では、視覚障害者用具・機器の紹介・指導や各種相談、多彩な文化・交流活動を展開しています。

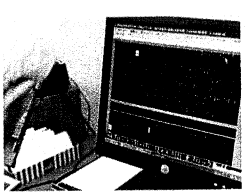


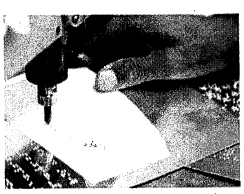




90年の歴史と伝統を誇る 点字出版と点訳活動

東事業所では、創業以来90年間培ってきた専門技術を駆使して、盲学校の教科書や厚生労働省委託図書の点字・録音出版をはじめ、自治体や企業の発行物の点字化・録音などを行っています。また、西事業所では、150人の点訳ボランティアが年間250点の図書を点訳し、無料で貸し出しています。





録音図書で読書の喜びを!

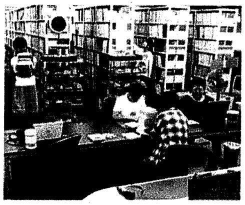
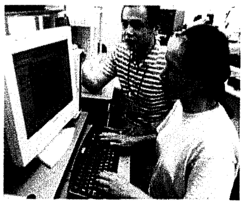
目の見えない方だけでなく、病気などで目が見えにくくなった方も、録音図書で読書を楽しみ、情報を得ることができます。西事業所では、250人のボランティアが年間400点以上の録音図書・雑誌を製作し、CD貸出やインターネット配信を行っています。

電子機器と便利グッズで楽しく、豊かな生活を!

西事業所のサービスフロアでは、音声や手ざわり、見やすい表示で使うことのできる便利グッズや電子機器を200点以上展示・紹介。利用方法の手ほどきや視覚障害でお困りの方のご相談にもお応えしています。さらに、パソコンやインターネットの個人指導やサポートを行い、読み書きや情報利用の応援、電子図書館「サピエ」の普及に力を注いでいます。

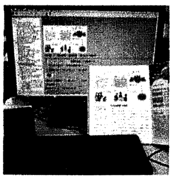
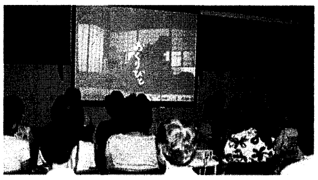
数十万冊の図書を「貸出」とインターネットで提供

西事業所では約2万点の蔵書をはじめ、全国で数十万点に達する点字・録音図書を年間6万点以上、無料で貸し出しています。これらの図書は、インターネットで24時間、自由に読んでいただけます。また、館内のスタジオでは、年間1千件を超える対面リーディング(読み書き)サービスを行っています。

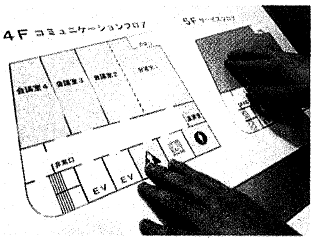
電子書籍や音声解説でさらに広がる情報提供

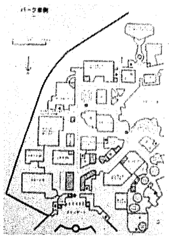
今日、目は見えていても、さまざまな障害で文字を読んだり、理解するのが困難な方が増えています。西事業所では、そうした方々のために、電子書籍(マルチメディアデイジー)による図書製作に取り組んでいます。また、画面の見えない方もテレビや映画を視聴できるように「音声解説」の製作・普及を進めています。

街中に広がるくらしに役立つ点字サイン

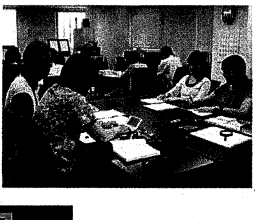
視覚障害者の方が安心して外出できるように、駅の券売機や建物案内の点字プレート、点字地図など、くらしに役立つ点字サインを製作し、バリアフリー社会の実現に貢献しています。

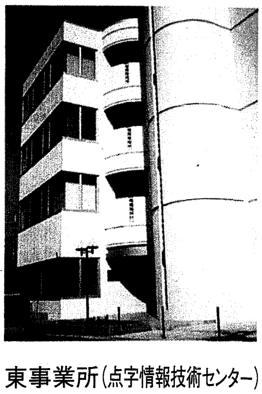




情報サービスを支える多数のボランティア

600人を超えるボランティアが点訳、録音、電子書籍製作、対面リーディング、各種作業、PCサポートなど多様な専門分野で活動し、目の見えない方、見えにくい方への"情報保障"を支えています。





西事業所
〒550-0002
大阪市西区江戸堀1−13−2
地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」
Tel 06−6441−0015

東事業所(点字情報技術センター)
〒577-0061
東大阪市森河内西2−14−34
JR学研都市線「放出駅」
Tel 06−6784−4414

視覚障害リハビリテーションセンター

「自分らしい自立」を支える

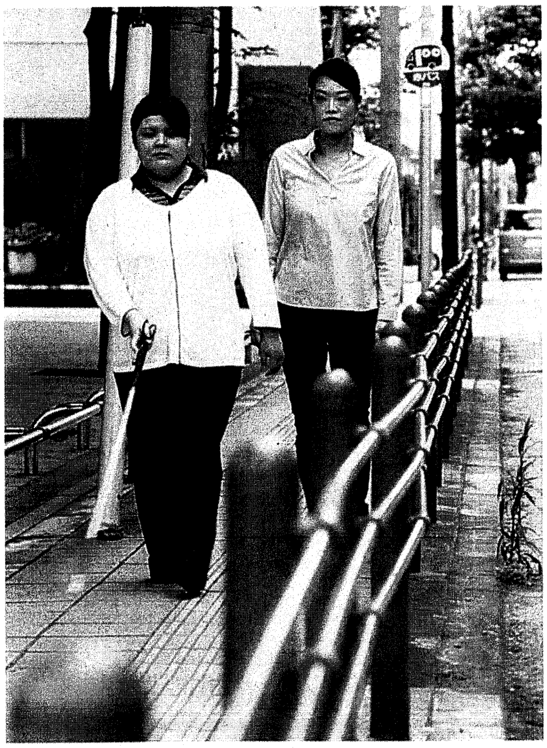
目が見えなくなって困っている。でも、これからも張り合いのある毎日を送りたい。地域でいきいきと生活したい。視覚障害リハビリテーションセンターでは、全国の目の見えない方、見えにくい方の、そんな思いに応えています。

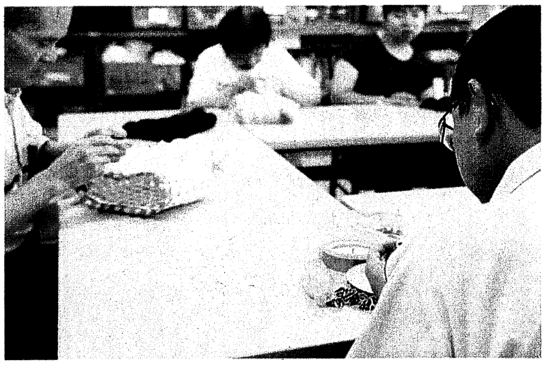
施設や事業所を利用して、生活を豊かにする

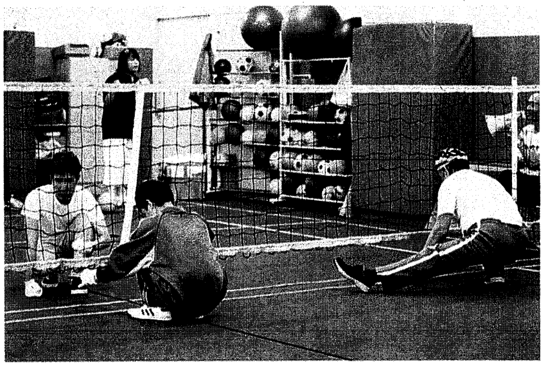
入所施設および日中活動事業所では、その方の持っている力に着目し、その方らしい自立が実現できるよう、支援を行っています。

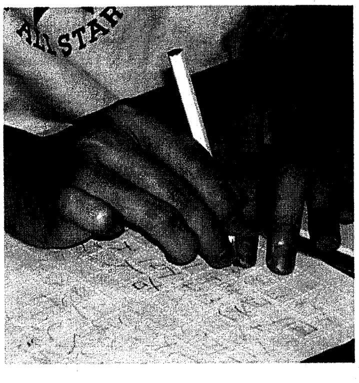
ご利用にあたって、その方がどのような暮らしを送りたいのかをうかがい、支援の方法をご一緒に組み立てます。そして個別支援計画に基づき、ニーズが充足されるようにサービス提供を行っています。

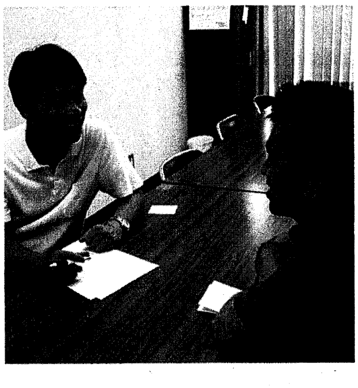
日中活動プログラムでは、点字やすみ字、パソコン、白杖を使った歩行、スポーツや手工芸、カラオケ、ディスカッションなどの場を通して、人との出会いやさまざまな価値に触れていただく場を提供し、1日平均、60人から70人の方々にご利用いただいています。　（日本ライトハウスきらきら・日本ライトハウスわくわく）







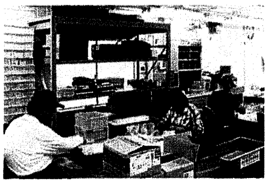




「働く」を支える

障害者能力開発事業として、大阪障がい者職業能力開発校から委託を受け、一般就労を目指した1年間の訓練を提供しています。入校時期は、４月と10月の２回です。　（職業訓練部）

あんま・はり・きゅう師免許を持つメンバーが、実際にお客様の治療経験を積むことにより、技術の向上をはかっています。　（盲人ホーム）

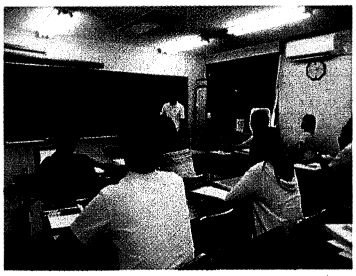
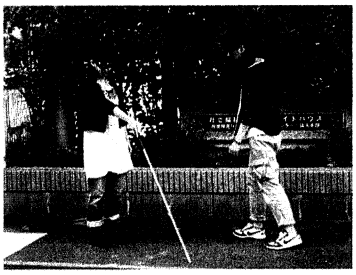


さまざまな業者の下請け作業などを行い、社会と繋がる仕事をしています。

（日本ライトハウスわくわく）

良き支援者となるために

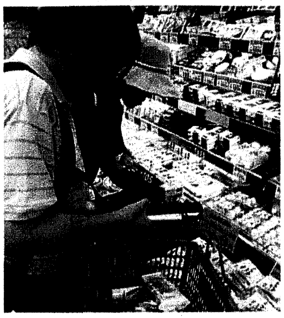
各地で視覚障害者に対する支援ができるよう、厚生労働省委託により、視覚障害リハビリテーション指導者養成事業を行っています。その他、医療や教育関係者の方々を対象とした短期間の講習会や、自治体との契約による在宅訓練、講師派遣、専門書籍の発行等を行っています。　（養成部）

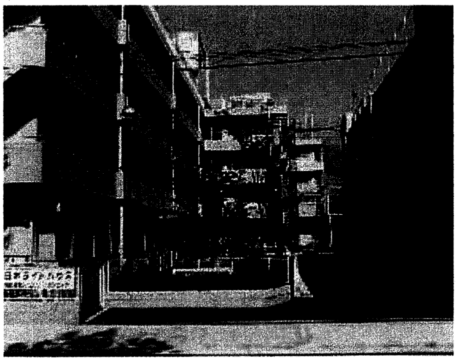



「地域で暮らす」を支える

ご自宅での生活を支えるため、ホームヘルパーやガイドヘルパーの派遣および相談を行っています。

（日本ライトハウス居宅支援センターてくてく）





視覚障害リハビリテーションセンター
〒538-0042
大阪市鶴見区今津中2−4−37
JR 学研都市線「放出駅」
Tel 06−6961−5521

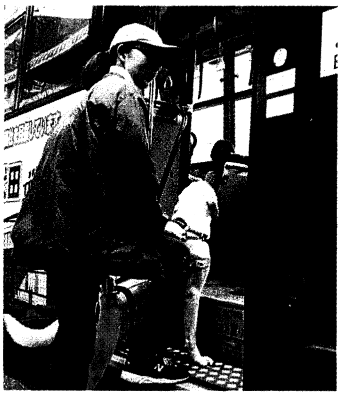
盲導犬訓練所

良きパートナーとして社会参加を支える

盲導犬の存在によって、視覚障害者は大きな行動の自由と心の絆を得ることができます。1970年に事業を開始して以来、2012年10月までに607頭の盲導犬がユーザーに貸与され、良きパートナーとして活躍しています。

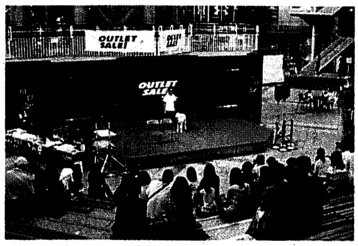
喜んでサポートする盲導犬を育成する

私たちは、ユーザーと一緒に出掛けることを楽しみにしている盲導犬を育成します。交差点に着いたら「good」、バスの乗り口で「good」、ほめ上手になることがレベルアップにつながります。



社会に向けての広報活動に努める

2002年10月「身体障害者補助犬法」が施行され、公共交通機関や商業施設など、さまざまな場所で盲導犬が受け入れられるように義務付けられました。しかしまだ、利用を断られたりすることも少なくありません。盲導犬をパートナーとしているユーザーの生活や願いを理解していただくため、イベントやデモンストレーション、講演活動などを行っています。



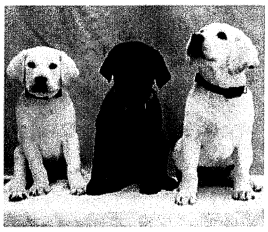
日本ライトハウス盲導犬訓練所
〒585-0085
大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202
近鉄「富田林駅」から金剛バス
Tel 0721－72－0914

盲導犬の一生

盲導犬の一生は、誕生から仔犬の育成、訓練、そして盲導犬としての活躍、引退まで、命ある限り続く長い道程です。そのすべてのステージで、ボランティアの方々の大きなサポートを必要としています。

1 誕生

盲導犬は選ばれた父犬・母犬から産まれます。

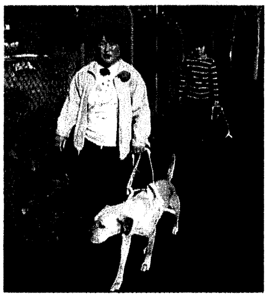


2 パピー

仔犬は生後 2 カ月で、パピーウォーカーと呼ばれるボランティアに預けられます。愛情をもって育てられ、1 歳になるまでに人間社会でのさまざまな経験を積みます。

3 訓練

1 歳になると訓練所へ戻り、適性評価が行われます。その後、目の見えない方が安全に歩行するために必要な訓練を、約 6 カ月間行います。



4 共同訓練

訓練を終えた犬は、いよいよ新しいパートナーと出会います。盲導犬を取得する人は、約 1 カ月間、盲導犬と共に生活し、歩き方・世話の仕方を学びます。共同訓練終了後は、指導員が同行して現地でフォローアップ訓練を行います。

5 盲導犬

盲導犬と利用者は信頼し合い、助け合いながら約 10 年間ともに過ごします。

6 引退

10 歳から 12 歳になると、盲導犬としての任務を終えて引退します。

繁殖犬ボランティア

繁殖犬を預かっていただき、自宅で出産を行います。

パピーウォーカー

仔犬を預かり、1 歳になるまでご家庭で育てていただきます。

縫製ボランティア

盲導犬の服やレインコートなどを作っていただきます。

キャリアチェンジ犬ボランティア

盲導犬にならなかった犬を、家族の一員として引き取っていただきます。

イベントボランティア

街頭募金を行ったり、イベントでグッズを販売したりしてくださいます。

引退犬ボランティア

引退した盲導犬は、ボランティアの愛情を受けながら、のんびりと余生を過ごします。

社会福祉法人
日本ライトハウス

〒538-0042　大阪市鶴見区今津中2丁目4番37号
TEL（06）6961-5521　FAX（06）6968-2059